

# 高等教育質保証学会 第13回大会

## 基調講演

### 教育経済学からみた高等教育

佐野晋平（神戸大学）

#### 要旨

「大学（院）は多すぎるのか」、「大学（院）への進学には「効果」があるのか?」、「高等教育に対し公的に補助すべきか?」など、高等教育に関わる様々な「問」がある。本講演では、これら様々な「問」を考察する枠組みを教育経済学の知見について基づき紹介する。本講演は、佐野（2024）のうち高等教育に関わる部分をベースに、大きく3点に分けて報告する。

第一に、教育と経済学の関わりについて紹介する。経済学では、教育は人的資本への投資と考える。人的資本への投資は一生涯をかけて行われ、その投資は個人だけではなく公的にも実施される。そのため、人的資本投資の費用対効果や、誰がその費用を負担するか重要な論点となる。教育への公的な補助は、効率性の観点と公平性の観点から支持されうる。効率性の観点は教育の正の外部経済効果を強調し、公平性の観点は教育の所得格差是正効果を強調する。高等教育への公的補助がこれらの観点から支持されうるかの評価は、高等教育への投資のリターンがどの程度であるか、教育への補助の効果についてのエビデンスと関わる。

第二に、高等教育（大学、大学院）への教育投資のリターンに関する研究を紹介する。教育投資のリターンは主に所得・賃金の上昇で計測される。日本を対象としたいくつかの研究によると、大学・大学院の教育投資には一定のリターンが存在する。さらに、教育とスキル形成には一定の関係が想定され、スキルにも一定のリターンが存在する。このような教育投資やスキルのリターンは、経済・社会状況により変化することもわかってきている。AIなどの技術進歩や労働市場の変化との関連も示唆される。このような変化に高等教育はどのように対応するかが論点となる。

第三に、奨学金に関する研究を紹介する。奨学金は、教育投資のための教育資金の調達が

困難である家計への教育補助の一つである。高等教育における私的な負担が大きい日本において、奨学金の役割は大きい。奨学金の評価は、その存在により実際に進学や教育によるスキル形成が促されたかにある。日本における研究では、奨学金には一定の効果が見られるものの、その支給の方法によっては意図せざる影響も明らかとなっている。以上を踏まえて、高等教育における、費用負担の問題について紹介する。

#### 参考文献

佐野晋平 (2024) 『教育投資の経済学』 日経文庫